

発行：2011年6月2日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャンティ山口 代表 角 直彦
連絡先事務局 〒753-0215 山口市大内矢田 717 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083
ホームページアドレス：<http://www.shanti-yamaguchi.com/>

読売新聞

(第3種郵便物認可)

2011年(平成23年)6月1日(水曜日)



「大変な人のために役立てて」。東日本大震災の被害を知ったタイ北部の農村の人たちが、農業指導に訪れていた山口県周南市のNPO法人「シャンティ山口」のスタッフに支援金を託した。2640万円。日本円にすれば約7100万円だが、現地では1世帯の月収にあたる。電気も水道も通っていない300人の村から寄せられた思いはコーヒーなどの温かい飲み物に形を変え、被災者に届けられた。

(小笠原瞳)

支援金を託したのは、ホイプム村の山岳民族の人たち。震災翌日の3月12日、同法人の現地事務所でのテレビを見たサタワット・セーヤン村長(33)から「日本がツナミに襲われたらしい」との情報が広がった。その1週間後、法人事務局長の佐伯昭夫さん(66)に親しい村人2人が「日本は大変だろう」と100万円(約

タイの村から「日本ガンバレ」

全世帯が支援金

山口のNPO 農業指導が縁



サタワット村長(左)から義援金を受け取る佐伯さん(中)(3月25日、タイ・ホイプム村で)＝佐伯昭夫さん提供

270万円)ずつ手渡してくれた。さらに、村長が約50の全世帯から寄せられた計2440万円(約6600万円)を封筒に入れ、「日本の皆さんへの村人全員の気持ちです」と渡してくれ

た。村人は農作物の収穫期以外、ほとんど現金収入がなく、大半の世帯は貯金する余裕はないという。

それでも約2年前からタイの各地で有機農業を指導したり保育園を造ったりしてきた同法人のために、と動いてくれた。

村人たちの支援金は、宮城県気仙沼市の避難所で5月、同法人が被災者にふるまった抹茶やコーヒーなど約100人分の飲み物の費用に充てられた。

佐伯さんは6月にタイを再訪した際、改めてお礼を言っつもりだ。

「村の人たちが惜しまず『大金』を出してくれた。食べ物に恵まれ、電気も好きさなだけ使える日本の生活の在り方を考えさせられた」と話していた。

山口新聞

2011年（平成23年）6月1日（水曜日）

NPOに支援金 20万円贈る

山口県央RC

山口市の山口県央ロータリークラブ（藤井清一郎会長）は31日、タイ北部で森林再生や農業支援などに取り組むNPO法人シャンティ山口（角直彦代表理事）に支援金20万円を贈った。

クラブの国際奉仕活動の一環。シャンティ山口は、タイの山岳民族と現地で寝食をともにしながら、「自然循環式エコトイレ」の設置による衛生面の改善や、農業支援などで貧困の解消を図っており、「その活動の一助に」と支援金を贈ることにした。

同市小郡黄金町の山口グランドホテルで開かれた例会で贈呈式があり、藤井会長から角代表理事に支援金が手渡された。角代表理事は「小さな団体の活動を認めていただき大変ありがたい。われわれの考えや技術を伝えることに活用させていただきます」と感謝の言葉を述べた。

角直彦代表理事（左）に支援金を手渡す藤井清一郎会長（右）中央は佐伯昭夫・シャンティ山口事務局長



贈呈式の様子



御礼のご挨拶 シャンティ山口 角 代表理事 2011.5.31

